

『谷川柚衣フルートリサイタル』

≪概要≫

タイトル：谷川柚衣フルートリサイタル

日時：2022年2月27日（日） 開場 14:00 開演 14:30

会場：スペース Do 管楽器専門店ダク地下

自身 2 回目となるフルートリサイタルを開催。メイン曲には「この先の音楽人生をかけて大切にしたい」と思い続けている曲である、A.ジョリヴェの『リノスの歌』と G.ピエルネの『ソナタ Op.36』を演奏する。

当日のプログラムは、リサイタルの 1 曲目として聴きやすく、素直でノスタルジックな N.ロータの『5 つのやさしい小品』からはじまり、次に B.バルトークの『ルーマニア民族舞曲』を演奏する。オリジナルはピアノ曲であるが、本公演では、フラジオ奏法を用いるので、フルートの違った一面を見せたい。この曲の後には、G.ピエルネ氏と同じフランス出身である音楽家 J.イベールの『戯れ（ソナチネ）』、そして前半メイン曲、古代ギリシャにおける挽歌や哀歌が題材の、A.ジョリヴェの『リノスの歌』で締めくくる。後半は旋律の美しい S.バーバーの『カンツォーネ』で始まり、20 分ほどの大曲である G.ピエルネの『ソナタ Op.36』を演奏する。

≪目的・達成したい成果≫

今回プログラムはフランスものがやや多いものの、あえて国や時代にとらわれずに構成した。作曲家のそれぞれの意図を組み、演奏で伝えられるよう音楽的・技術的に完成度の高い演奏を目指したい。また、作品の背景と作曲家の音楽的な特性を正しく理解すると共に、演奏を通じて一人でも多くの方に、「素晴らしい作品が存在するのだ」ということを伝えていきたい。同時に、音楽家としての「谷川柚衣」を知っていただくきっかけになればと思う。

≪将来の夢・今後の展望≫

「作品を残した音楽家たちの意志や構想、伝えなかったことを汲み取り、想像し、それを演奏で表現できる音楽家になること」が私の目標である。例えばバッハやモーツァルトなど、はるか昔に様々な作品を生み出した音楽家に演奏を聴いてもらう機会があるとしたら、彼らが思わず「お！」と興味を持ってもらえるような演奏がしたい。そのためには当時の流行りや時代背景、その作曲家がどんな影響を受けて作曲に至ったのか等の知識と、楽譜から読み取る分析力をつけていきたい。自信をもって自分の演奏ができるよう、フルートの音色や技術面も鍛え、説得力を高めていく。

《プロフィール》

谷川^{たにかわ}柚衣^{ゆい}（フルート奏者）

12歳よりフルートを始める。洗足学園音楽大学を卒業。42nd フルードデビューリサイタルに出演。2017年には東京・新潟にてフルードリサイタルを開催。これまでにヴィセン
ス・プラッツ＝パリス氏、エッカルト・ハウプト氏の公開レッスンや、ピエール・イヴ・
アルトー氏、サンドリーヌ・フランソワ氏のマスタークラスを受講。フルートを故・立花
千春、前田綾子、白戸美帆、下払桐子の諸氏に師事。室内楽を千葉直師、故・立花千春、
山根公男の諸氏に師事。現在フリーランス奏者として活動するとともに、後進の指導も行
っている。山野楽器ヤマノミュージックサロンセンター北、ウインズミュージックスクー
ルフルード講師。